

音楽とは 横への感性なり!

ウィーン岐阜合唱団ホームページアドレス
<https://www.wiengifu.org>

2月

2025年2月1日
編集・発行
ウィーン岐阜合唱団



2025年1月26日

第23回新春第九演奏会

岐阜市民会館大ホール

“第九”を 初めて歌って

大垣 ソプラノ 林 京子

昨年9月頃 水曜教室が始まるとうことを知り『第九を歌ってみたい!』という気持ちになりました。友達にも相談したところ、「歌い甲斐が有り一度は経験すると良いよ」と言ってくれ、早速10月より練習に参加させて戴くことになりました。

練習1日目、カタカナが書いてあるもののドイツ語で歌えません。しかし助かったのは、水曜教室の皆様が優しく、受講者が少ないのでマンツーマンみたいなもので 第九の単なるアナリーゼではなく 本に書けない様なアナリーゼを平光先生が私達のレベルまで降りて来て下さってご指導戴

き 第九の素晴らしさと、ベートーヴェンの素晴らしさを知りました。そして、回を重ねる度に 面白く楽しくなりました。 そんな数ヶ月の間に本番が近くなり 少しは歌える様になったものの 本番は暗譜との事、そんな時、団員の方が「1回目は登壇するだけでいいのよ」と 優しいお言葉で ホッとしたり安堵感だったり…… そして前日、本番は暗譜! 楽譜が無いと歌えない事を考えると眠れませんでした。そして当日本番直前、真由子先生の練習指導で、「ソプラノは言葉はいらない、響が欲しい!」のお言葉で、安心して本番を迎える事が出来ました。

いざ 登壇！ 着席！ 第九の演奏が始まり、今までの客席から見る平光先生では無く 全然違う厳肅な指揮者平光先生の眼の動き・手と指のさばき、そして、そのお姿には目を見張るものがありました。

私達は身動きも出来ない狭い座席でしたが 先生の素晴らしい指揮と管弦楽団の素晴らしい演奏のお陰で、狭さも感じず凄い時間を過ごすことが出来ました。私にはこの点も新たな第九との出会いでした。

“美しく青きドナウ”と“大地讃頌”

も歌う立ち位置が狭く楽譜は持てないと思い 団員皆様 のお力をお借りして 1 番良い暗譜で歌う事が出来ました。 終了後の打ち上げも音楽三昧で弦楽四重奏あり、ソリストの迫力な歌ありで 他では味会えない素晴らしい宴でした。終わってみれば、本当に練習の時には考えられない程の楽しい 一日を味わうことが出来ました。最後になりましたが 平光先生始めスタッフの皆様に心から御礼を申し上げます。

ありがとうございました。

アマチュア混声合唱団「ウィーン岐阜合唱団」の「第23回 New Year 第九演奏会」が26日、岐阜市美江寺町の市民会館で開かれた。約120人の大合唱が響き渡り、聴衆を魅了した。年末にプロオーケストラ祭と全国障害者芸術・文化祭(で「千人の第九コンサート」が開催された)ことを受け、ニューイヤークンサートとして企画した。

今回の「第九」では合唱団員のほかに一般募集した34人が集った。第2部が開演し、ヨハン・シュトラウス2世の「美しく青きドナウ」に続き「第九」を合唱。同管弦楽団員45人の演奏に合わせ、昨年8月から毎週練習を積み重ねてきた団員らが迫力ある歌声を響かせていた。(松田尚康)

のウィーン岐阜管弦楽団の演奏で、ベートーベンの交響曲第九番などを披露する演奏会を開いている。例年会場となっている長良川国際会議場(同市)が改修工事で休館していることや、昨年11月に「清流の国ぎふ」文化祭2024(国民文化

「第九」迫力の合唱

ウィーン岐阜
岐阜市で公演



令和7年1月28日 岐阜新聞朝刊より (於岐阜市民会館)

合唱組曲「山に祈る」 山の歌

- ① 山よ お前のふところは 山の男のふるさとよ
うれしい時は山へ行くさびしくなれば尾根歩き
- ② 山よ お前は愉しそう ピークで呼ぶヤッホーを
忘れずすぐにこだまして 山の仲間と呼びかわす
- ③ 山よ お前が隠しても 歯をむくような方し場なら
それがお前のしぶい顔 雪崩が残した爪の跡
- ④ 山よ お前の優しさは テラスの空の星のように
テントの窓からしのびこむ 小屋の窓から降ってくる
- ⑤ 山よ お前のきびしさは 鵜と雨との捲き返し
風と吹雪のうなり声 おそう白魔の大雪筋
- ⑥ 山よ お前よさようなら たき火の煙消えないで
林をぬけて頂上へ 別れの言葉 告げてくれ
- ⑦ 山よ お前よいつまでも ぼくはお前を忘れまい
お前もぼくを忘れずにお前もぼくを忘れずに

文化祭で出会った 2 人

岐阜・バリトン 坂井俊郎

昨年の清流の国ぎふ・文化祭の期間中に 2 人との印象的な遭遇・出会いがあった。いずれも極めて個人的なものであったが、心がときめいた経験であったと言っても良い。

一人目・・・11月2日に岐阜市文化センターで行われた「邦楽三曲演奏會」で遭遇した早瀬大和君（敢えて君と呼ぼう）。彼自身のことには後ほど触れたい。箏曲を嗜まない自分ではあるが、六段の調べ位は知っているし、江南高校の女生徒の潑刺とした演奏ぶりも知っているのですその日は気軽に出席した。いい加減さが災いして会場に着いたときは、彼女らの出番後。すれ違いの虚しさを噛みしめて座るしかなかった。やがて“ラス前”の演目となり、急に周囲の人々がそわそわし始めたし、会場の人口密度の高まりを感じた。奏者は垂井町出身の早瀬大和君で、若干19歳とある。演目は箏独奏による「翔き」。冒頭から長くかすれたバイオリンの響き、ギターのトレモロに似た長いフレーズが続き、別の楽器ではないかと思わせる音色が続いた。演奏技術の高さ・確かさは素人目にも分かった。次第に言葉にならない感情のうねりに襲われた。彼は逸る気持ちを抑えつつ見事に自分の思いを込めて最後まで演奏仕切った。どよめきとともに続く万雷の拍手。会場の皆は彼を心待ちし、会いたくてここに来ていたのだ。東京藝大1年在学中で現代箏曲を学ぶ彼に岐阜からエールを送りたい。

二人目・・・4日後にクララザールで行われた清水陽介君のチェロ独奏会は、終始アットホームな雰囲気の中で行われた。見たところ、客席には彼の叔父・叔母、祖父・祖母の心境にある人々で一杯である。かくいう小生もウィーン岐阜合唱団員であった縁で彼の若いころのチェロを聴いたこともある。当時から彼の演奏は静かに思索するチェロであった。9月にチェコの国際コンクールで第一位となった彼の凱旋リサイタルを一刻も早くやらねばという地元の並々な強い思いを感じた。この企画を知ったのは何と前日の朝刊。「おめでとう、そしてお帰り。」と「ただいま」の交差する90分間は例えようもなく家庭的であり、感動的でもあった。小生を含め会場内の大部分は彼の中学校時代を見ているはずである。彼の素直な語り口、熱を秘めた演奏ぶり、加えて演奏中に耳に届く彼の息づかいも音楽の一部となり贅沢な空間がそこにはあった。その夜最後に披露してくれたのは、彼がチェコの本選決勝で演奏した、チャイコフスキーの「ロココ風の主題による変奏曲」である。「当日はチェコで長らくお世話になった人々への感謝の気持ちを込めて演奏し、今宵はこれまで温かく見守っていただけた岐阜の皆さまへの感謝の気持ちを込めて弾きます。」これだけでも泣けるが、その晩集まった者には確かに最高のご馳走となった。これからが本当に楽しみな二人である。

2 月～4 月 練習予定

準備が先 声は後

練習時間開始 15 分前までに集まりましょう

岐阜会場 長森コミュニティーセンター	大垣会場 大垣市南地区センター		各務原会場 ウィーン岐阜ホール (ときめき)
木曜日 (18:30~20:30)	水曜日 (10:00~12:00)	金曜日 (18:30~20:30)	日曜日 (14:30~16:30) ●第 1 日曜日のみ 10:00~12:00
1月30日 休み	1月29日 休み	1月31日 休み	2月2日 ●10:00~12:00
2月6日	2月5日	2月7日	2月9日
2月13日	2月12日	2月14日	2月16日
2月20日	2月19日	2月21日	2月23日
2月27日	2月26日	2月28日	3月2日 ●10:00~12:00
3月6日	3月5日	3月7日	3月9日
3月13日	3月12日	3月14日	3月16日
3月20日	3月19日	3月21日	3月23日
3月27日	3月26日	3月28日	3月30日
4月3日	4月2日	4月4日	4月6日 ●10:00~12:00
4月10日	4月9日	4月11日	4月13日
4月17日	4月16日	4月18日	4月20日
4月24日 ●北部コミセン 岐阜市八代1-11-3	4月23日	4月25日	4月27日
	4月30日		

広報委員より 皆さまの原稿をお待ちしております お問い合わせは広報委員 まで

広報委員 高橋 なお子

e-mail:wien.chorus2021@gmail.com

携帯: 090-9933-0374、fax: 058-294-6114

白木 政春

e-mail:printshiraki@yahoo.co.jp

携帯: 090-9924-6137、fax: 058-231-4721

戸本 富美子

e-mail:fmeeeeen66@yahoo.co.jp

携帯: 090-2929-0251